

令和6年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属幼稚園

1 附属幼稚園の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

(2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

(3) 学級数・収容定員

6級(1学年2学級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

(4) 幼児・児童・生徒数

134人 (男児57人 女児77人)

(5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 6人、養護教諭 1人、非常勤講師 2人
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人
栄養士 1人、調理師 1人、調理員 1人

2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活がつくり出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさや可能性に気付く姿を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会や園内研修会を通して、一人一人のよさや可能性に気付く姿とその姿を支える教師の援助と環境構成について探る。 3年間の研究のまとめを幼児教育関係者を対象とした研究発表会で報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの園内研修会を実施した。5月に実施することで、教師の援助や環境構成が気付く姿を支える要因になることが明らかになった。ものや人と対話している姿を複数の教師で読み取ることで、対話の視点を広げたり、より深い読み取りにつながった。 事例検討会では対話の中で「よさ」に気付いている姿を記録し、幼児自身が自分のよさや可能性を感じ取ったり、気付いたりしているのか考えた。その中でどのような力が育まれたのかを捉えることができた。 約190名の参加者があった。参加者と共に学び合う機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果をリーフレットとしてまとめ、ホームページでも公開していく。また、今年度得た成果をもとに教育課程を見直していく。 たくさんの参加者があり活発な協議ができた。参加者からも研究内容が理解できたというアンケート結果を得ることができた。次年度も継続していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修会の在り方として、子どもの姿だけでなく教師の働きかけや環境構成がどうだったかを話し合うことは大事である。その後の保育のつながりがでてる。 研究発表会では子どもの姿を元に協議できたことはよかった。教師の働きかけや環境構成についてなど具体的に話し合うことができた。 研究発表会では学びたい教員が学べる機会となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修会では子どもの姿を話し合うことが多かったので、その姿が現れる教師の援助や環境構成について学び合える機会にしていきたい。 附属幼稚園の役割として研究発表会で教員が学び合える機会を提供していくことは大事である。次年度も継続していきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の安全に関する意識を高め、安全・安心な園づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練など安全に関する取り組みについては事前、事後の話し合いを密にする。 警察、消防等関係機関とも連携を図り、教職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練はいろいろな想定で行うことができた。教職員それぞれが自分の役割を意識し、動くことができたと思う。 避難訓練、防犯教室、交通安全教室、防災体験会の折にはできる限り警察や消防の方にきていただき、指導していただくようにした。警察への申し込みが遅く、防犯教室は大阪府警の方にきていただけなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな想定で行うことで、改めて安全について考えることにつながった。想定外のことが起きた時には臨機応変に動かないといけないこともあるので、これからは教職員の意識を高めていきたい。 日頃から警察や消防と連携することにより、有事に連携がもちやすくなると思われる。これまでの連携を継続しながら、さらに連携を深めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな想定で訓練を行うことは大事である。保護者評価を見ても大阪府全体の評価と比べて、園の取り組みを評価してくれていることが読み取れる。放送をしっかりと聞くなど子どもたちにも身についていることが分かる。 防災体験会は今年度、マスコミにも取り上げられた。注目されることをしているのもっとアピールしてもいいのではないかな。 防犯や防災の取り組みについては卒園生にどのように記憶に残っているのか聞いてみてもいいのではないかな。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果に満足することなく、今後もいろいろな想定で避難訓練などを行い、教職員の安全の意識の向上に努めたい。 取り組んだ内容を園の中にとどめておくのではなく、保護者や地域の方に発信していきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動について PTA と話し合い、誰でもが参加しやすく、継続しやすい取組みをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動では、保護者から積極的に取組みの提案があり、夏祭りや緑育活動など新たな取組みが行われた。充実した活動で、過去の幼稚園の様子や、クラブ活動の取組みを伝えることができたのではないかなと思う。 保育参加や話そう会などで異学年の保護者同士が話し合う機会も設けることができた。いろいろな保護者同士で意見交流することで園の方針などを理解する機会にもなったのではないかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 役員の積極的な呼びかけもあり、クラブ活動も委員会活動も活発に行われた。一部の保護者に負担もかかっていたのではないかなという懸念もあるため、次年度は、皆で分担して取り組めるよう改善していきたい。 話そう会など話し合いのテーマが定まりにくいものは参加者が少なかった。どのような会であるのかを明確に知らせ、有意義な時間となるよう働きかけていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動は参加してもらえたら楽しさを分かってもらえるのではないかな。参加者が少ない行事については、保育参観と組み合わせるなどの工夫も必要ではないかな。 学校評議員の園では PTA の委員を全員にしている。園児数が少なくなる中で、そのような工夫も必要ではないかな。 	B	<ul style="list-style-type: none"> まずは活動に参加してもらえるように、なるべく早く行事を知らせたり、活動の内容を具体的に知らせたりなどしていきたい。 PTA 行事の開催については本当に必要かどうかを精査し、誰でもが参加しやすい内容にしていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」						
学校教育計画	4 教育実習の指導充実						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> • 学びの深い教育実習の在り方を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 働き方改革を並行して取り組めるよう、実習ノートの見方を見直したり、指導の仕方を工夫したりする。 • 事前に配当クラスを知らせ、実習準備を入念に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実習ノートの指導高評を記入するのを週1回とし、その他の日は実習生自身が指導を受けたことを自分で記入するようにした。そうすることによって、指導をうけたことをまとめる機会となり、学びは深まったように思う。 • 昨年度に引き続き事前に配当クラスを知らせた。しかし、目の前の幼児の実態を把握しないと案が立てられないこともあり、入念に準備ができたとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実習ノートの指導高評の記入を軽減することは教員の負担を減らすことにつながった。実習生自身が自分で指導を受けたことを記入することは、実習生によって差はできるので、それを確認することが必要である。 • 担当クラスがわかっても準備が十分とは言えないが、実習生の安心感にはつながるようである。今後も継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> • 一般的に学生が実習に参加した後、就職先として幼稚園を選んでいないと聞いたことがある。一人で担任を持つ大変さや自信のなさがあるのではないかと。やりがいをもてるように、実習生に伝えてほしい。 • 実習ノートは担任が確認しないといけないことは返って教員の負担が増えているのではないかと。 	B	<ul style="list-style-type: none"> • 実習生には子どもの成長を身近に感じられる仕事であることを伝えながら、やりがいを感じられるようにしていきたい。 • 実習ノートの確認は必要であるが、教員の負担軽減と、実習生の学びにはつながっていると感じている。継続していくことで実習生の学びが深まるようにしていきたい。

